

リズムと青い鳥



「好き」という感情は多面的だ。依存にも、嫉妬にも、絶望にもつながる感情。そして、勇氣にも、尊敬にも、希望にもつながる感情。今回紹介するアニメ映画『リズムと青い鳥』はそうした「好き」という感情の多面性を精緻なプロットと音楽、映像によって丁寧に描き出している。

物語は高校の吹奏楽部に所属するオーボエ奏者、鏝塚みぞれの視点から始まる。みぞれは高校卒業前の最後の大会で、親友であるフルート奏者、傘木希美とともに課題曲でのかけ合いを演奏することになっていた。演奏するのは『リズムと青い鳥』。リズムという少女と一羽の青い鳥の出会いから育まれる愛情と、愛情ゆえの別れを描いた童話をもとにした曲。

自分がリズムで、希美が青い鳥。卒業を前にしたみぞれは童話の中の関係を自分たちに重ね合わせながら、その別れに恐怖を抱く。親友に対する「好き」という感情のため、別れを恐れる彼女には希美の感情はわからない。わからない感情の一部だけでも、自分に向けてもらえれば。切実な思いを抱えたまま、みぞれの物語は展開する。

みぞれの物語の進行とともに、希美の物語もまた少しずつ明らかになっていく。はつきりとは語られない。けれど、微妙な表情の変化、映像に仕掛けられた比喩、激しさを表に出さない音楽、それらすべてが希美の「好き」を中核に据えた複雑な感情を浮き彫りにしていく。そして、二人の少女の「好き」という感情、そして各々が背負う物語のすれ違いがだんだんと提示されていく。しかし、二つの物語はすれ違いでは終わらない。

物語はハッピーエンドがいいよ

二人のすれ違う物語が、そして「好き」という感情が、重なり合う一点、ハッピーエンドを求めて。作品を構成するすべての要素はその一瞬のきらめきに向けて進んでいく。

テーマとして吹奏楽を扱っているにもかかわらず、作品は全体として静謐だ。しかし、静謐さの中に揺蕩う少女たち二人の「好き」という感情は、観る人すべての心を揺さぶるほどに、強く、激しい。

映画『リズムと青い鳥』

【Blu-ray】 7,800円＋税

【DVD】 6,800円＋税

発売元：京都アニメーション・『響け！』製作委員会

販売元：ポニーキャニオン



はみだし
すてーじ

最近寒すぎませんか??
⇒ 平年並みか平年より暖かいようです

(文・2 ショコラ)
(気象庁がそう言っていました；編)